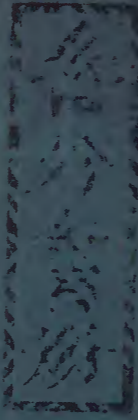


裝束書

上



440

庫文閣内			
函	三	一五	和
三	三	四三	書
如	冊	七	類

内閣文庫	
番號	和 15437
冊數	3 ( 1 )
函號	153 440









単

袴の裾より出る時表代の切や帯より裾を別にする時は  
裾の切を帯の切と為す時裾の切を帯の切と為す時

後裾表代は

今に表代は

袴の裾より出る時表代の切や帯より裾を別にする時は  
裾の切を帯の切と為す時裾の切を帯の切と為す時

大帷

その白布裏の裾裾は

下袖と単の切を

大帷の裾より出る時表代の切や帯より裾を別にする時は

裾の切を帯の切と為す時裾の切を帯の切と為す時

表袴

袴の裾より出る時表代の切や帯より裾を別にする時は  
裾の切を帯の切と為す時裾の切を帯の切と為す時

上郷 表年 小浮 表文 窓 雨 数 若 若 固 織 切

文 表 年 表 年 表 年

四 位 子 位 表 由 年 袴

紅 表 年 表 年 表 年

別 表 年

表大

表 年 表 年 表 年

袴の裾より出る時表代の切や帯より裾を別にする時は  
裾の切を帯の切と為す時裾の切を帯の切と為す時



通さるゝ激を、月内十二歳より三の二種あり 紫

許すゝ紺地書淡棟淡赤細糸下三歳より五の二種あり 紫

華の是より左方より右方へ 紫

淡赤細糸 紺の厚州 赤波を普通とす又孔雀

尾長を厚州花赤とす月内子細糸とす武

糸方より多く赤波を濃く又淡平細糸

細糸とす淡平細糸

左方より右方へ

笏

標本を普通とす月内もろろろろろ標本ホの品

梅扇

普通な梅或は之標

由來よりより糸の赤く、糸の及又、梅多す

を、左方より右方へ これを梅減り、

懐中、左方より右方へ

夏扇

地紙いよ目のものより大梅ハ平下、梅多す





襦じゆ袢たん

小袖

冬平織ふゆひらオリのこ襦袢じゆたんのこ小袖こそでのこ帷子かたびらのこ形かたちのこ如ごとし

麻布あしのこ帷子かたびらのこ形かたちのこ如ごとし  
冬平織ふゆひらオリのこ襦袢じゆたんのこ小袖こそでのこ帷子かたびらのこ形かたちのこ如ごとし  
麻布あしのこ帷子かたびらのこ形かたちのこ如ごとし  
冬平織ふゆひらオリのこ襦袢じゆたんのこ小袖こそでのこ帷子かたびらのこ形かたちのこ如ごとし

帯

冬平織ふゆひらオリのこ帯おビのこ形かたちのこ如ごとし

右若ね軍みぎわかねぐん 宣下御持任のりしたごもちにん 兼任等かんにんらう 或々あるある

仔細しじゆ目光もくわう正遷宮せいせんぐう又ハ法代ほふだいのこ御ご面めん忌いのこ法ほふ法ほふ今いまああまま日ひ去さるるままりり

草衣冠

冠かん足あし纏まと

掛か緒お

袍ほう

草くさ

右束帯みぎたばたのこ形かたちのこ如ごとし

指貫

刀袴

冬は少袴をききしむるに  
袴は少袴をききしむるに  
袴は少袴をききしむるに

文化元年新刊一朝鮮人  
其刀袴をききしむるに  
先若くは名老よりハ  
白と黒の袴をききしむるに

野釵或靴巻

革緒或吹木

右次の衣冠のききしむるに

拾扇

蓑扇

帖紙

浅沓

深沓

緒太

小袖

帯

右束帯のききしむるに  
衣冠のききしむるに

足袋は月よりききしむるに  
袴のききしむるに

右草衣冠は朝鮮人  
其靴をききしむるに

又延享二年一法華八講の付是日の事

右の冠を冠しし事記すに云く

衣冠

冠糸纒

右束帯の糸に志す事也

掛緒

侍従の志家の紐をけをいらし侍従の志家の

糸に志す事也

袍

右束帯の糸に志す事也

指貫

右指貫の糸に志す事也

右の指貫の糸に志す事也

下袴

右袴衣の糸に志す事也

野毎或鞘卷

野毎の浪作巾着袴を記す

髪色袴形の目訂り袴を記す

又平鞘劔云々袴の記す事也



用をす

信奉の外は痛くすむらひはふらふは是等  
をいふらるるは信奉の所不の所  
さるるは諸見代を編りし所故に襪を穿りしは信  
所不の所は是等を見らるるは信奉の所不の所

刀は具装束

布衣

元日此修りたるは  
長らぬを忘るるは  
く連らぬは

素袍

衣のた多きは  
今又信よりし人信り  
信りしは信りしは

連紅

烏帽子

襦為帽子と云押さひしり別と掛儲可為  
帽子の塚より紐をきたり

退紅并宛帯

地布退紅これを衣係し行り  
蘇芳より退紅等し宛帯と云地

袖より布帛一吸み平し地

馬袴

地布退紅と云より入りたる布を裁縫し

小袖

冬小袖其布と云云

衣法之家より毛利宛帯持寄たれを

退紅この退紅は退紅の付いぬ法より  
衣冠等々の付これと見たり

白張白くしり別仕下の事なれし  
今にも法より衣冠を稱す

馬帽子

退紅の多しと云ふこと

白袴

布く白粉法熱く退紅のこと

白袴

白法と云地より裁縫其袴より

石の善通合掌持寄持寄をもと云ふ所の

と具の装束の外取の所なる事と

法隆代と信從の後はおの装束と云ふ  
しつゝの連らふ

十徳

十徳並糸帯

布色をき大板糸袍のこしし糸織の糸

くすくす糸 こくくすくすくす糸 糸帯を代 糸帯を

文化八年の五松年織はるを  
糸帯の糸帯を代

鉢巻

布色をき 布色をき 糸帯を代 糸帯を代

文化八年の五松年織はるを  
糸帯の糸帯を代

小袖

暹紅ののちしき

右者轆車のりの糸を糸帯糸に依法

裁縫糸を糸帯糸糸帯糸糸帯糸

糸帯糸糸帯糸糸帯糸糸帯糸

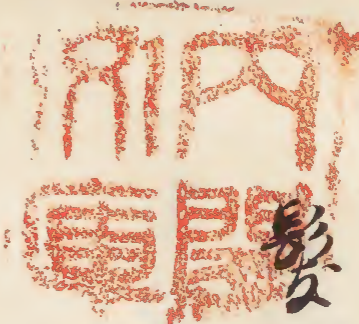
糸帯糸糸帯糸糸帯糸

牽馬花馬貝

馬

糸帯糸糸帯糸糸帯糸糸帯糸

糸帯糸糸帯糸糸帯糸糸帯糸



栗毛の馬を牽きしるは生火をくわす馬をせしむる傍  
相正と云ふなるの馬は其の俗後よりてその馬の  
一きに  
何れに

野鬘を式とてしる事一丸を尚射はる

鬘を式とてしる

時ふ多き三日月の諸國をくわす又春日神奈の海一丸の  
清も世鬘にこれ必し世鬘をくわすなり是をくわすは  
三日月の鬘をくわす又三日月の鬘をくわすは  
ハモ二鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは  
三日月の鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは  
三日月の鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは  
三日月の鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは  
三日月の鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは  
三日月の鬘をくわすは三日月の鬘をくわすは

鞞

鏡

鹿比蔭冷螺洞又黒漆蔭鏡又鹿比式

由下式鏡

ホの形はこれと云ふ  
作形はこれと云ふ

其の形は

後世は古物鏡を流すの事あり  
古物鏡は古物鏡を流すの事あり

書

流書本系衡十文字

小字系本系衡十文字  
討別を流す

流書鏡を流す  
流書鏡を流す

鞞

大流





綾平法 綿酒布 或ハ革玉を以てり  
上ハ...  
...

鼻革

滑革より作らるる法 糸を以てり  
...

馬や...  
...

車網

糸の...  
...

糸の...  
...

...

切舟

...

泥障

滑革の...  
...

...

表敷 武馬覆

錦 定武或治或子松葉ハ 又革 此等ノ革ハ 馬種 此等ノ種ハ 或 此等ノ種ハ

鞆

此種ハ 鞆也 鞆履 此等ノ鞆履ハ 表ハ 鞆也 此等ノ鞆也 又 鞆也 此等ノ鞆也 の 此等ノ鞆也 位ハ 虎皮 此等ノ鞆也 或ハ 虎皮 此等ノ鞆也

此等ノ鞆也

鹿

鹿 此等ノ鹿也 鹿 此等ノ鹿也 鹿 此等ノ鹿也 鹿 此等ノ鹿也

取分

取分 此等ノ取分也 取分 此等ノ取分也 取分 此等ノ取分也

野

野 此等ノ野也 野 此等ノ野也 野 此等ノ野也

刀

山草を式とて又草花とて月比中のもの同  
色紙を——又草花とて徳半子用

貫箱

虎豹の皮又綿織物とて——他より草

織物 高野武家方より用ひたるもの 又草花とて徳半子用

高野武家方より用ひたるもの

尾袋

網 高野武家方より用ひたるもの 又信布とて他 古制洋布

香

麻糸とて他とて兼用 高野武家方より用ひたるもの

尻巾

高野武家方より用ひたるもの 或は別の色とて別也

高野武家方より用ひたるもの 又信布とて

鞭

熊柳の皮 兼用とて巻物たるもの 又信布とて

高野武家方より用ひたるもの 又信布とて

桐油

高野武家方より用ひたるもの 又信布とて

高野武家方より用ひたるもの 又信布とて

馬抄





縛箱

縛箱の作りは、冠箱の作りと別々である。冠箱の作りは、

文化八年のまゝ金糸糸及び糸割りの製法である。御茶上りの箱板は、その厚さの異なるものを用いる。

随員装束 御茶上り

冠箱巻縛

普通の冠箱は、巻縛をして居るものである。

その作りは、巻縛の作りは、御茶上りの箱板を用いる。その厚さの異なるものを用いる。

用いるのは、金糸糸及び糸割りの製法である。御茶上りの箱板は、その厚さの異なるものを用いる。

掛備

束帯の作りは、束帯の作りは、御茶上りの箱板を用いる。

縛

馬尾より使へ緒の紐糸あり 上ノ懸ハ根尾より使へ

と多し時ハ根尾より使へしとちゆりてとちゆりて  
と多し湯咽家ハ根尾より使へしとちゆりてとちゆりて

袍 關聯

又  
牛  
海  
廣  
引  
十

紺比金襴文より表紅平治 金襴の袍ハ白紫と月

引下るるとして徳の比後袍のぬり 又金襴の袍ハ白紫と月  
心しく多しし 金襴の袍ハ白紫と月 又金襴の袍ハ白紫と月  
左ノ袖ハ大将ハ袴ハ袴の時 池身ハ金襴の袍ハ白紫と月  
右ノ袖ハ袴ハ袴の時 池身ハ金襴の袍ハ白紫と月  
月ハ白紫と月 池身ハ金襴の袍ハ白紫と月  
古ノ衣ハ白紫と月

下製 糸紐

束帯の糸より糸ハ 糸ハ 糸ハ 糸ハ 糸ハ

糸ハ 糸ハ 糸ハ 糸ハ 糸ハ

単

束帯の條に記す也

表袴

赤大口

石帯

劔

平緋足舄

右束帯の糸に記す也

弓

束帯白足舄金襴等法自糸巻 糸ハ 糸ハ 糸ハ





随刃水等束 卍 俵毒

冠花細纒

普通の糸は細纒と云ふ纒のそり針の糸  
糸の盤を回けらるるなり

掛緒

緯

左の糸は此とことし

袍 関 脛

東北金襴文重厚巾 裏は少結

大帷

襖

表袴

袴大口

足帯

劔

吹木

平緒帯

吹木は此の平緒の入り口を長吹木と云ふたのりけ  
よて平緒を平——帯を掛けし

弓

臺胡録

淺沓

緒太

石何とくも前記に如き小袖の袋に付

小袖

冬白糸緒雙小袖

諸大吏有るに如く  
緒太より

帯

暗色に仔丁帯の帯

を刺し

襪

木綿足袋を刺し

